



学校だより

# ながや

令和元年度 第6号

令和元年 10月 1日

横浜市立永谷小学校

校長 平野 好子

「ノーサイドの精神」で

校長 平野 好子

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会が開幕しました。

「ノーサイド」の笛は、「試合が終われば勝利の側（サイド）も負けた側（サイド）もない」というラグビー精神につながっているといわれています。「ノーサイド」は、競技以外でも歌や雑誌、ドラマでの題名にも使われているようです。テレビ中継等で「試合終了」ではなく、「ここでノーサイドです。」という言葉が聞かれます。しかし、「ノーサイド」は海外では使われていなく、日本だけで使われるラグビー用語だとも聞きました。海外では、試合終了のことを「ノーサイド」ではなく、「フルタイム (full time)」と呼んでいるのだそうです。

選手たちは試合中には、敵・見方に分かれていますが、観客席では、お互いのチームのファンが隣同士に座って試合を見るのは、ラグビーでは当たり前の光景だということです。試合終了後、お互いに健闘をたたえ合うことが通常であり、この「ノーサイドの精神」は世界のラグビー界で生きているということです。

日本では、試合終了後に「ノーサイド」とされますが、世界的には試合前、試合中、試合後も含めてサイドをつくらないのがラグビーだそうです。私も知りませんでした。

最近様々スポーツの場面で、試合終了後に握手をし言葉を交わすなどして、「ノーサイドの精神」が生きた、互いにたたえあう光景が見られます。

「ノーサイド」という言葉は、日本独自で使われてきた言葉です。しかし、ラグビーで大事にしていた敵・見方のサイドをつくらないという精神を受け継ぎ、私たちも試合終了後にだけたたえ合うのではなく、勝負は別として、試合前、試合中も含めて、サイドをつくることなく相手のよいところを認め合うことを大切にしたいと思います。

ものごとの前・中・後の努力や活躍をたたえながら、勝ち負けや結果等を乗り越えて、互いの健闘をもたたえ合うラグビー精神は、個人・団体を問わずに、すべての競技、そして、私たちの日々の生活に通じるものであってほしいと思います。

10月19日（土）には、永谷小学校では、スポーツフェスティバルを予定しています。永谷小学校のすべての子どもたちが、自分の競技に、そして役割に、準備の段階から全力で取り組み、その結果だけでなく、至る過程も含め、お互いに「ノーサイドの精神」でたたえあう姿が見られると信じています。

地域の皆様・保護者の皆様のご協力・ご支援をお願いします。